

## 令和8年度北海道開発事業費

### (札幌開発建設部実施分)の概要について

令和8年度北海道開発事業費（札幌開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

全体	広報官	福島 志乃	(電話番号 011-611-0279)	ダイヤルイン)
河川関係	河川計画課長	高橋 賢司	(電話番号 011-611-0329)	ダイヤルイン)
道路関係	道路計画課長	小林 暁	(電話番号 011-611-0239)	ダイヤルイン)
空港関係	空港整備課長	福本 貴則	(電話番号 011-611-0273)	ダイヤルイン)
公園関係	道路防災推進官	大工 秀樹	(電話番号 011-611-0246)	ダイヤルイン)
農業関係	農業整備課長	下川 昇大	(電話番号 011-611-0247)	ダイヤルイン)



令和8年度

北海道開発事業費  
(札幌開発建設部実施分)の概要について

令和8年4月

札幌開発建設部

## 目 次

I	札幌開発建設部事業費総括表	.....	1
II	札幌開発建設部関係事業概要（事業別）		
1	治水関係事業	.....	2
2	道路事業	.....	1 3
3	空港整備事業	.....	2 1
4	国営公園事業	.....	2 2
5	農業農村整備事業	.....	2 3

## 令和8年度 札幌開発建設部事業費総括表

(事業費)

(単位：百万円)

事 項	予 算 額	備 考
治 水	43,991	
道 路	40,366	
空 港 整 備	2,304	
都 市 水 環 境 整 備	98	
国 営 公 園 等	1,054	
農 業 農 村 整 備	15,473	
合 計	103,287	

- 注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。  
 2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。



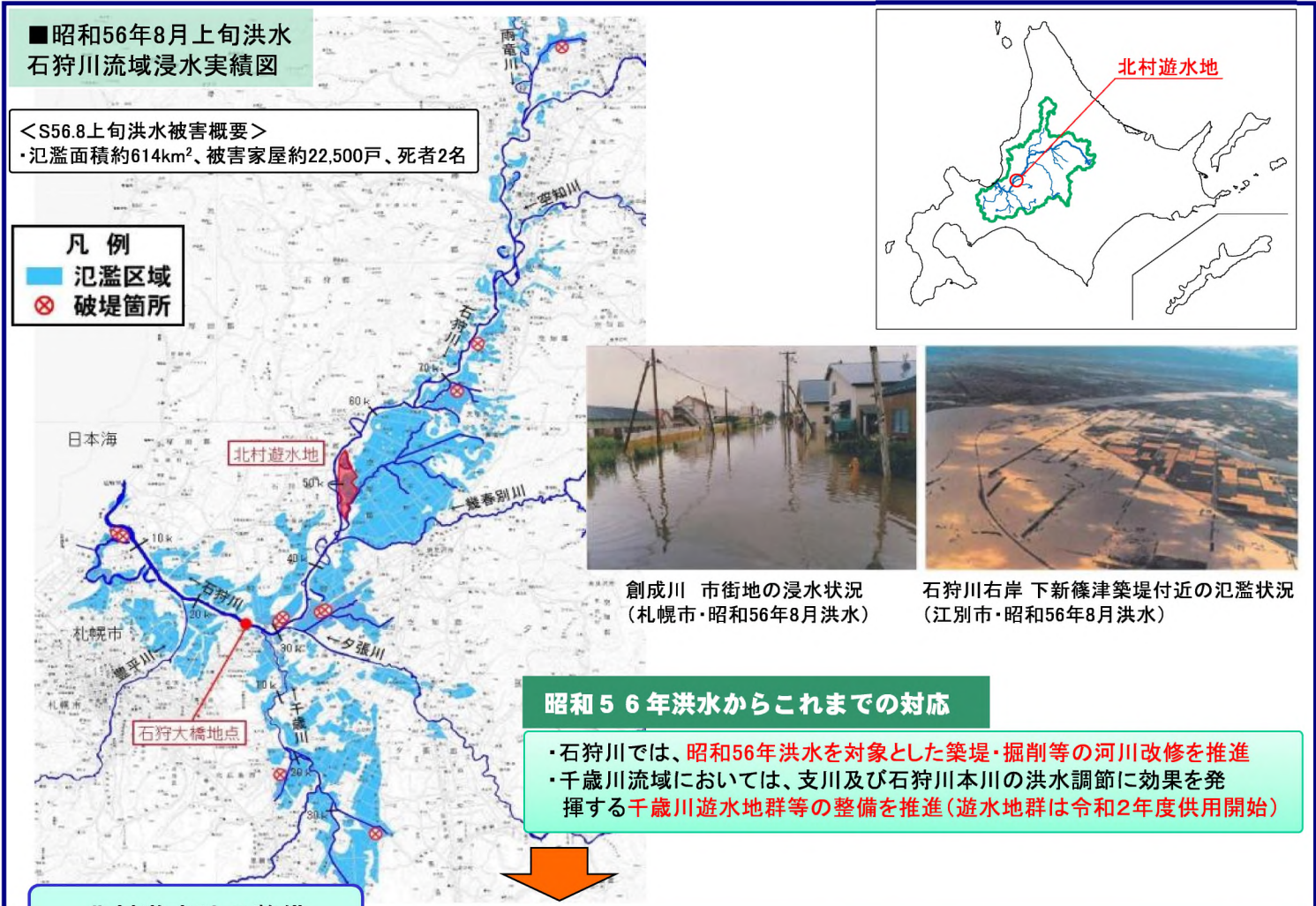
# — 石狩川 北村遊水地整備 —

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国数の食料供給地です。

昭和56年8月洪水時には、11箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積614km<sup>2</sup>、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するために北村遊水地等の整備を推進します。

### 《北村遊水地》

- 事業箇所 : 岩見沢市、月形町、新篠津村
- 事業期間 : 平成24年度～令和12年度
- 遊水面積 : 950ha（遊水地単独の面積では、全国で3番目の大きさ）
- 洪水調節容量 : 4,200万m<sup>3</sup>
- 主な整備内容 : 周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、排水門、用地・補償 等
- 令和8年度実施内容 : 周囲堤、囲ぎよう堤、排水門、補償 等



### 昭和56年洪水からこれまでの対応

- ・石狩川では、**昭和56年洪水を対象とした築堤・掘削等の河川改修を推進**
- ・千歳川流域においては、支川及び石狩川本川の洪水調節に効果を発揮する**千歳川遊水地群等の整備を推進**(遊水地群は令和2年度供用開始)

### 北村遊水地の整備



■北村遊水地等の整備によって、昭和56年洪水対応が完了し、石狩川下流域の浸水被害を解消。



# — 幾寅地区MIZBEステーション —

石狩川の支川である空知川では、平成28年8月の洪水により南富良野町幾寅地区で空知川の堤防が決壊し、農地が冠水するほか、市街地が浸水する被害が発生しました。

この洪水被害を解消するため、堤防の整備や河道掘削を行うとともに、災害時の水防活動や災害復旧の拠点として河川防災ステーションの整備を河川整備計画に位置付け推進しています。近年では平時に施設の上面を市町村等の取組により、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションをMIZBEステーションとして登録しており、幾寅地区では北海道内では初めて登録された施設となり北海道開発局と南富良野町が連携し施設の整備を推進するとともに、地域の活性化につながる賑わいのある河川空間の創出を目指し「南富良野町かわまちづくり」の取組も推進します。

○令和8年度実施内容 水防センター 等



空知川幾寅地区の堤防決壊氾濫状況

南富良野町市街地の浸水状況

(H28年8月洪水)



### 整備イメージ



平時は施設上面をレクリエーション施設として利活用

### 平時利活用のイメージ



デイキャンプ・バーベキュー



パークゴルフ

# — 河川堤防・施設の点検・維持 —

石狩川下流域には札幌市を始めとして複数の人口集中地区の他、北海道の産業の基幹となる農地が広がっており、社会の基盤となっています。

洪水によって市街・農地が被害を受けないよう、河川管理施設（堤防・樋門等）について点検を行い、その機能が維持されるように必要な補修を行っています。

## ■石狩川下流域 管理の概要

### 施設の点検(状態把握)



#### 堤防除草(左写真)

堤防には堤防保護のための植生が生育しています。

草丈が高い状態だと堤防に異常があっても発見できない恐れがあることから、年に一度、堤防の点検前に除草を行い視認性を確保します。

#### 河川管理施設の点検(右写真)

堤防や河川管理施設(樋門や護岸)に異常がないか、年に一度、全堤防・施設を直接点検し、異常がないかを確認します。

異常を発見した場合は詳細に状況を確認し、施設の安全性にどう影響するかを評価します。



#### 河川巡視(左写真)

前述の詳細な点検とは別に、定期的に河川を巡視し、ごみの不法投棄や、点検後に新たに異常が発生していないか確認しています。

巡視は定期的な実施の他、洪水・地震などがあつた際には緊急的に実施し、堤防や施設に被害がないか確認しています。



### 効率化・コストダウンの試み

#### 巡視の効率化

現在、人の目で確認を行っている巡視について、既設の状況監視カメラや車載カメラ等による撮影画像からAI判定で異常や不法投棄を判別する取組(AI/Eye River)を検証しています。



車載カメラで撮影し、路面のひび割れを判定

#### AI/Eye Riverイメージ



状況監視カメラを利用し、川への不法投棄を検知



樋門函体内をレーザー計測し、変状箇所を検知、計測、評価

#### 堤防除草の効率化

現在、草刈機1台に1人以上が従事している除草作業について、自動運転により1人で複数台を運用し、除草した面積を自動計測する除草自動化の取組(SMART-Grass)を進めています。



ICTを活用した堤防除草の自動化のイメージ

#### 処分費のコストダウン

堤防除草で発生した刈草や、河川敷地内で生育したため伐採した樹木について、処分場に持ち込むのではなく、利活用(堆肥や燃料)してくれる企業等を公募して配布し、コストを縮減しています。



刈草を堆肥用に公募無償配布



伐採した樹木をチップ・燃料などに利活用するための公募樹木伐採(伐採樹木の配布)

### 施設の維持(管理対策)

点検で確認された破損は補修を行ったり、施設の更新を行ったりしています

#### 施設の機能維持・補修

##### 河川の樹木伐採



##### 樋門水路に溜まった土砂の撤去



河川管理施設の点検で発見された異常は、施設の機能に支障がないよう、補修作業を随時行っています。

(例:河川の流れを阻害する樹木の伐採、河川へ水を排出する樋門水路の流れを妨げる恐れのある土砂の撤去など)

#### 施設の更新

##### 排水機場の原動機改良



完成から年月が経過し古くなった施設について、改正された基準に従って更新したり、新たな機能をもった施設への改良など進めています。

(例:排水機場の原動機やポンプの無水化など)

日々の施設管理によって、大雨による洪水時に大きな被害がないよう、施設の維持管理を実施

# — 幾春別川総合開発事業 —

幾春別川下流部は豊かな農地として利用され、上流部には深い山々に囲まれた桂沢湖があり、川が刻んだ周囲の渓谷からは、貴重な化石が出土しています。また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置するなど交通の要衝となっており、洪水災害から地域社会を守るため、幾春別川総合開発事業を推進します。

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した北海道初の直轄多目的ダムである桂沢ダムを約12m嵩上げする再開発ダムであり、令和5年度に完成しました。

三笠ほんべつダムは、幾春別川の支流である奔別川において新たに建設される治水専用ダムであり、令和4年度より本体工事を実施しています。

### ○目的

- ・洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（桂沢水道企業団（岩見沢市、三笠市、美唄市）0.1m<sup>3</sup>/s）
- ・工業用水の供給（北海道企業局 0.149m<sup>3</sup>/s）
- ・発電（電源開発（株）最大17,290KW）

○令和8年度実施内容： 本体工事（三笠ほんべつダム）、地すべり対策工 等



# — 雨竜川ダム再生事業 —

雨竜川流域は深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の1市6町で構成され、上流域ではそばの栽培が盛んであり、その品質は高く、全国の1等格付けそばの9割以上の産地が雨竜川流域となっています。また、下流域の平地では水稻の栽培が盛んであり、農業が流域全体の基幹産業となっています。さらには、国道233号、国道275号などの基幹交通施設が位置するなど、交通の要衝となっています。

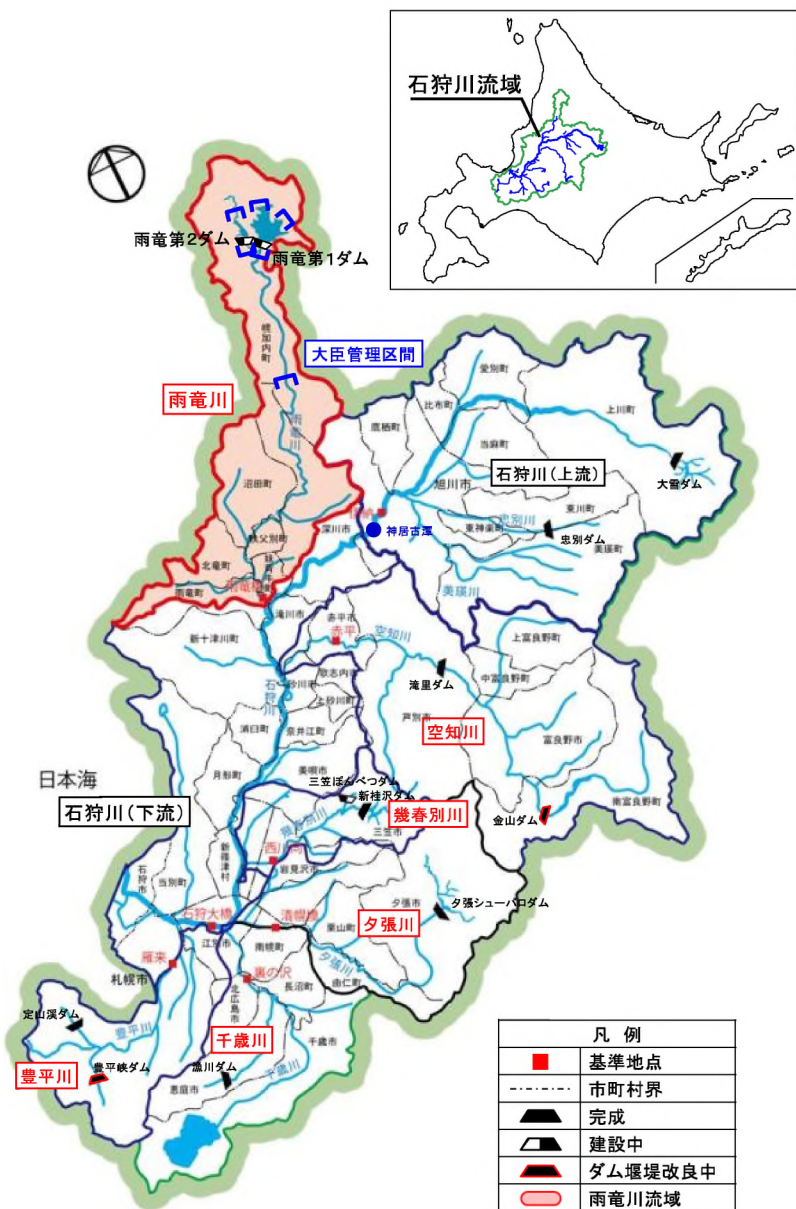
雨竜川ダム再生事業は、昭和18年に完成した発電専用ダムである雨竜第1ダムと雨竜第2ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保するものです。洪水災害から地域社会を守るため雨竜川ダム再生事業を推進します。

雨竜川ダム再生事業は、令和5年度から建設段階に移行し、雨竜第2ダムにおいては令和6年度より本体工事に着手しています。

### ○目的

- ・洪水調節（雨竜川、石狩川の洪水被害防御）

○令和8年度実施内容： 本体工事、管理設備工事 等



雨竜第1ダム



雨竜第2ダム



雨竜第2ダム(嵩上げイメージ)

— 石狩川水系豊平川直轄砂防事業 —


札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。

また、札幌市街地は豊平川の扇状地上に形成されており、昭和56年洪水では、豊平川本川河道に流出した堆積土砂による河床上昇のため、堤防付近を高速流が流れる大変危険な状態になりました。幸い、豊平川本川では堤防決壊には至りませんでしたでしたが、上流域の河岸段丘や支川沿いの市街地では、土石流や溪岸侵食により死者1名を含む甚大な土砂災害が発生しました。これらを契機に、翌昭和57年より直轄砂防事業による砂防設備の整備を進めています。


○事業効果

砂防堰堤や床固め工等の砂防設備の整備により、下流への土砂流出や堆積土砂の再移動を抑制し、豊平川本川の土砂・洪水氾濫被害を軽減するとともに、市街地や重要交通網、要配慮者利用施設などの資産を土石流等の土砂災害から守ります。

○令和8年度実施内容 床固工 等



**砂防基準点下流の扇状地に広がる札幌中心部**



昭和56年 豊平川堆砂状況(南19条大橋付近)



事業実施箇所



昭和56年災害 オカバルシ川被災状況



砂防堰堤工完成状況(既設堰堤改良)  
【南の沢川2号堰堤 令和5年3月完成】

## － 手稲山地区直轄地すべり対策事業 －

手稲山地区は、北海道の中心都市である札幌市に位置し、山麓には手稲市街地及び重要な交通網（札幌自動車道・国道5号・JR函館本線）が集中しています。ひとたび大規模な地すべりが発生すると、手稲山市街地への被害に加え、幹線交通が分断され、人命救助や経済活動に甚大な影響を及ぼすことが想定されます。令和7年2月には、地すべり土塊が市街地や重要な交通網等に直接的な影響のおそれがある範囲について、地すべり防止区域に指定されました。事前防災の観点で、令和8年度からは直轄地すべり対策事業を推進します。

### ○事業効果

地すべり対策により、手稲市街地及び札幌市と小樽市を結ぶ重要な交通網（札幌自動車道・国道5号・JR函館本線）を保全します。

### ○令和8年度実施内容 調査検討 等

## 事業内容

### 手稲山地区直轄地すべり対策事業における事業概要



### 早期効果発現への取組

手稲山地区には多数の地すべりブロックが分布しており、大規模な地すべり防止対策が必要となる可能性があります。このため、ブロックごとに対策の優先度を設定し、地すべり対策事業を推進することで、早期の事業効果発現を図ります。

### 関係機関との連携

地すべり防止工事と並行して、北海道・札幌市と連携し、地域住民への情報提供等のソフト対策を含めたハード・ソフト一体の総合的な取組を進めます。

### 主な対策工(概略設計のイメージ)

#### 抑制工



集水井工

井戸と集水ボーリングによって深い位置の地下水を排除する



横ボーリング工

地中に設置したパイプによって比較的浅い位置の地下水を排除する

#### 抑止工



杭工

杭を地すべり面より下部に届くように打ち込み、地すべり面の抵抗を強める

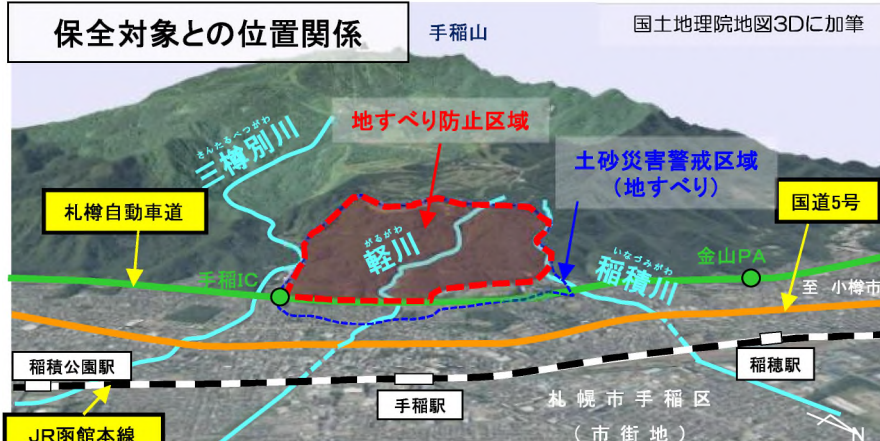


アンカー工

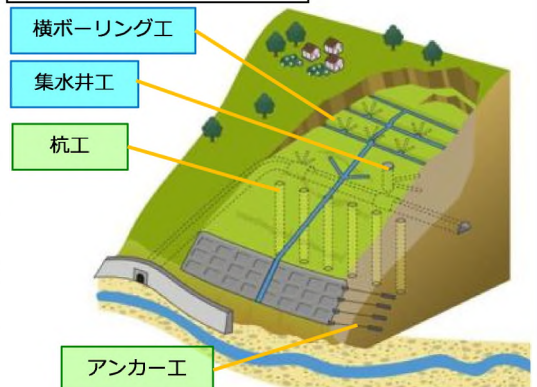
鋼線等を地すべり面より下部に届くように定着緊張し、地すべり面の抵抗を強める

## 効果

### 保全対象との位置関係



### 対策工イメージ図



－ 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(かわまちづくり) －

河川空間を活用した地域活性化のため、千歳市、南富良野町、江別市、砂川市、恵庭市において、地元自治体と連携した「かわまちづくり」を推進しています。

- 千歳市 : 観光拠点であるサーモンパークと市民の憩いの場所であるグリーンベルトなどについて、人々が集い、賑わいのある河川空間の創出を行います。
- 南富良野町 : MIZBEステーションや近傍に位置する道の駅「南ふらの」と空知川が一体となった水辺整備を行います。
- 江別市 : 水辺・周辺の歴史的建造物・まちをつなぐことで、まちなかの回遊性・親水性を高め、賑わいの創出による地域の活性化を図ります。
- 砂川市 : 砂川オアシスパーク(砂川遊水地)を活用し、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行います。
- 恵庭市 : 管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造します。観光地の魅力や居住環境の向上を図ります。

○令和8年度実施内容【千歳市かわまちづくり】設計 等、【南富良野町かわまちづくり】高水敷整正、管理用通路 等  
 【江別市かわまちづくり】護岸 等、【恵庭かわまちづくり】モニタリング 等  
 【砂川地区かわまちづくり】モニタリング 等

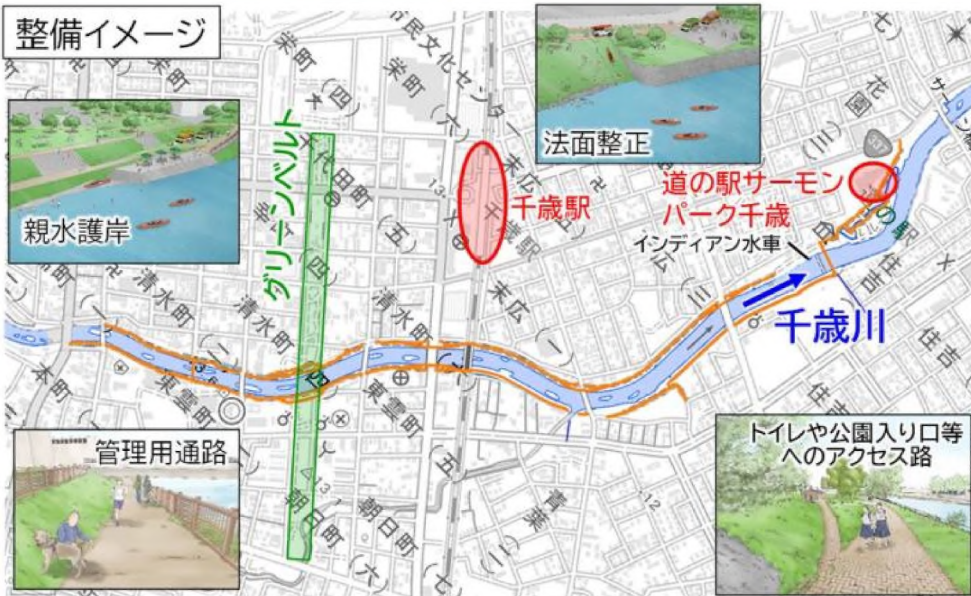
地区別等	登録年月	事務所
千歳市かわまちづくり(千歳川)	令和7年8月	千歳川河川事務所
南富良野町かわまちづくり(空知川)	令和5年8月	空知川河川事務所
江別市かわまちづくり(千歳川)	令和4年8月	江別河川事務所
砂川地区かわまちづくり(石狩川)	平成30年3月	滝川河川事務所
恵庭かわまちづくり(漁川)	平成30年3月	千歳川河川事務所



千歳市かわまちづくり

令和7年度 新規登録

グリーンベルトを中心とした「広場・公園・道路・河川」の一体的な活用



千歳市長への「千歳市かわまちづくり計画」登録証の伝達

砂川地区かわまちづくり

令和7年度 かわまち大賞受賞



# 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(自然再生)

石狩川流域では、明治期以降の河川改修など、人為的な影響により地下水位が低下し、それに伴って農地造成等が進んできました。その一方で、河川環境には大きな変化が生じ、河道の単調化、湿原環境の減少、多様な樹林環境の減少といった課題が顕著化しています。

こうした状況を受け、砂川市と新十津川町の境界に位置する袋地沼地区では、自然再生事業を進めています。本事業では、草地環境・樹林環境・浅場環境・深場環境の創出に加え、水域の連続性を確保することで、生物多様性の向上を目指しています。多様な生きものが共存できる場を取り戻すため、地域の自然特性を活かした環境づくりを進めていきます。

○令和8年度実施内容 設計、モニタリング 等

## 袋地沼地区自然再生



- ◆ 袋地沼は、石狩川の堤内に形成された旧川(大正8年よりも前に自然短絡)
- ◆ 袋地沼には、普通河川である一号線川と墓地谷川が流入し、袋地樋門を通して石狩川本川に流下
- ◆ ハクチョウを中心とした渡り鳥の観察にも利用される

## 自然再生の整備イメージ



# 令和8年度 道路事業

## 1. 北海道型地域構造を支え、世界を見据えた人流・物流ネットワークの形成

### (1) 高規格道路ネットワーク等の整備

広域分散型社会を形成している北海道において、食・観光等の基幹産業を支えるとともに、国土の強靱化を確保し、地域間の連携強化を図るため、道央圏連絡道路における「国道337号 長沼南幌道路」、「国道12号 峰延道路」、「国道452号 盤の沢道路」等の早期開通を目指し、事業を推進します。



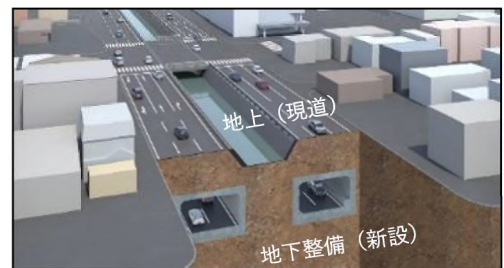
道央圏連絡道路 長沼南幌道路（長沼町）

### (2) 札幌における交通結節機能と都市機能の強化

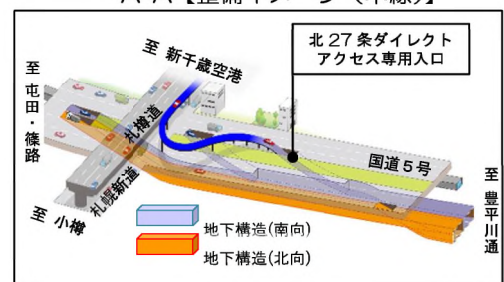
道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス機能を強化する「国道5号 創成川通」、札幌駅周辺における交通結節機能を強化する「国道5号 札幌駅交通ターミナル整備」の事業を推進します。

#### <道内各地を結ぶ高規格道路と札幌都心とのアクセス強化>

- 札幌都市圏は、北海道全体に及ぶ中枢管理機能や他の基礎圏域では提供できない高次都市機能を担っています。
- 一方、人口が同規模の政令市に比べ、都心と高規格道路のICとの距離が遠く、空港や道内各地域とのアクセスに課題があります。
- 北海道全域との広域的な交流・連携機能の確保を目指し、札幌都心部へのアクセス道路（創成川通）の整備を推進します。



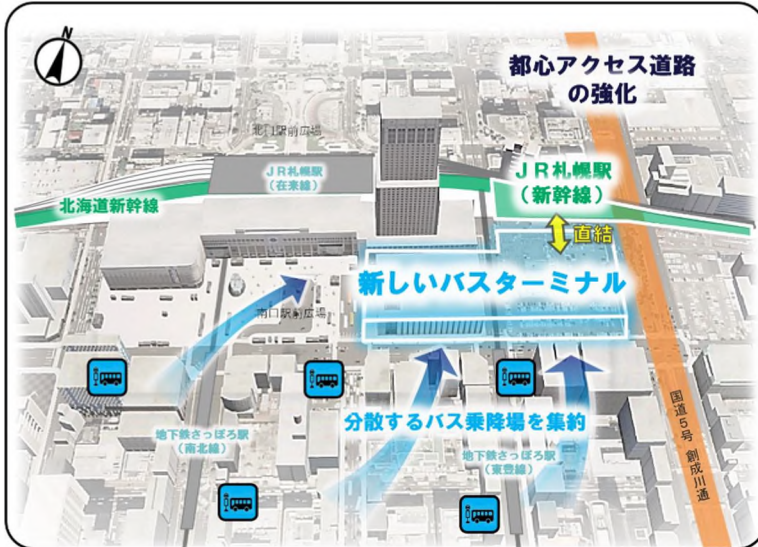
A-A【整備イメージ(本線)】



B【整備イメージ(ダイレクトアクセス)】

## ＜札幌駅周辺における交流拠点整備＞

- 道都札幌の玄関口にふさわしい空間の形成と高次都市機能・交通結節機能の強化を目指し、新しいバスターミナルの整備を推進します。
- 平常時は快適で利便性の高い待合空間、災害時は避難者の受入空間の確保等により防災拠点として寄与します。



### 都心アクセスの強化

- ・都心アクセス道路（国道5号創成川通）の整備により、交通混雑、交通事故の低減を図り、都市機能を最大化

### 新幹線駅との連携

- ・北海道新幹線札幌駅と一体的に整備
- ・東改札口及び交通広場を整備し、新たな公共交通システム等の二次交通と接続することで、一大交通結節点を形成

### 新しいバスターミナル

- ・都市間バス、路線バスを集約するバスターミナルを整備
- ・札幌駅周辺において新たなモビリティ等多様な交通モードとの連携により交通結節機能を強化



待合空間のイメージ（平常時）



バス乗降空間のイメージ（平常時）



札幌駅周辺の帰宅困難者の様子  
（平成30年9月6日  
北海道胆振東部地震時）

## 2. 多様で豊かな地域社会の形成

### （1）「生産空間」の維持・発展に資する「道の駅」の機能強化

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常的な生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど、地域の拠点づくりを支援していきます。

○親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進します。

○日本政府観光局（JNTO）外国人案内所の認定取得や、多言語による観光地案内・道路情報提供の充実等の取組を推進します。



子育て応援施設（授乳室）  
（道の駅「花ロードえにわ」）



総合案内所  
（道の駅「ライスランドふかがわ」）

### 3. 観光立国を先導する世界トップクラスの観光地域づくり

#### (1) 「シーニックバイウェイ北海道」の推進

○シーニックバイウェイ北海道は、地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取組です。平成17年度より開始し、札幌開発建設部管内では「支笏洞爺ニセコルート」「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」「空知シーニックバイウェイ体感未来道」が活動しています。

また、地域がお薦めする特に魅力ある景観等を有する道路であるシーニックバイウェイ「秀逸な道」として、札幌開発建設部管内では2区間が認定されており、景観の維持・形成や誘客に向けた情報発信等を重点的に実施します。



札幌シーニックバイウェイ  
藻岩山麓・定山溪ルート（国道230号）  
「秀逸な道」（札幌市）



支笏洞爺ニセコルート（国道453号）  
「秀逸な道」区間での清掃活動（千歳市）

#### (2) サイクルツーリズムの推進

○世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、石狩・空知・上川地域の全長約333kmに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・留萌地域の全長約290kmに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、安全で快適な自転車走行環境の整備やサイクリストの受入環境の充実、情報発信の取組を推進します。



自転車走行環境の整備  
（案内看板の設置）



サイクルラック設置  
（道の駅「石狩あいろーど厚田」）



サイクリスト・応援カー

## 4. 激甚化・多様化する災害への対応と安心・安全な社会基盤の形成

### (1) 災害からの迅速な復旧を支える道路交通ネットワークの強靱化

地震・津波による被害や社会的影響を最小限に抑えるため、代替性確保のための高規格道路の整備や緊急輸送道路上の橋梁の耐震補強、道路斜面や盛土等の防災対策を推進します。

また、気象変動に伴い激甚化、頻繁化する気象災害、切迫する大規模地震や急速に進む施設の老朽化等に対応するべく、災害に強い国土幹線道路ネットワーク等を構築するため、高規格道路ネットワークの耐災害性強化や老朽化対策等の抜本的な対策も含めて、防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図ります。

橋梁や道路の流失、土砂災害、電柱倒壊等による道路の通行止めのリスク解消や津波や洪水からの避難場所確保のため、河川に隣接する道路構造物等の流失防止対策や法面・盛土対策、無電柱化、盛土等を活用した避難施設の整備を実施します。



防災・減災、国土強靱化の取組  
(国道231号法面对策)



防災・減災、国土強靱化の取組  
(国道276号橋梁修繕)

### (2) 防災、通行の安全、景観の向上に資する無電柱化の推進

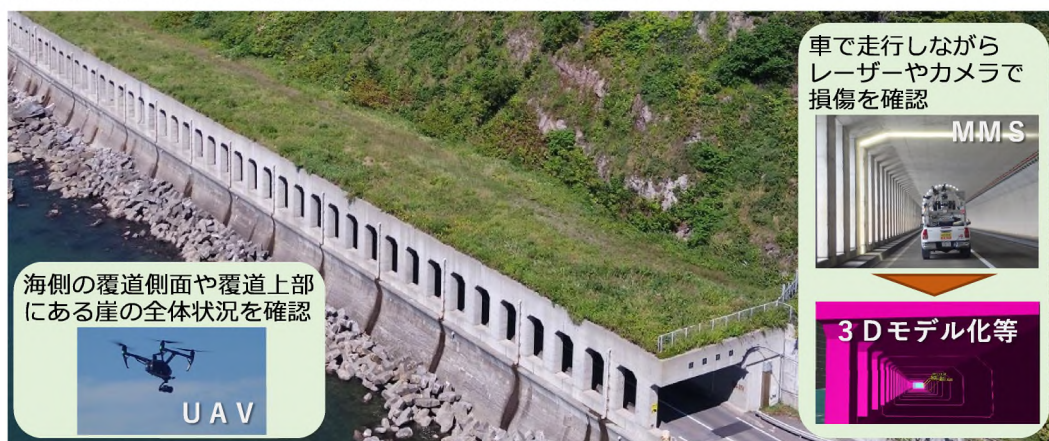
道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から実施している電柱の新設抑制及び無電柱化について、低コスト技術等を積極的に導入しつつ、事業のスピードアップを図ります。



無電柱化の整備 (国道12号江別市野幌)

### (3) 社会経済活動を支える道路施設のインフラ老朽化対策

道路施設が有する機能を長期にわたって適切に確保するため、各施設に応じた点検及び計画的・効率的な維持管理を図り、適切な老朽化対策を推進します。



道路施設の老朽化対策 (AI・デジタル技術等を活用した点検)

### (4) 冬期交通の確保

冬期の安全・安心を確保するため、冬期災害に備え、代替性確保のための高規格道路の整備、国道における防雪対策、防災訓練や住民の意識啓発等を推進します。また、大雪・暴風雪時の取組として、道路管理者間で連携した防災連絡会議の開催や、高速道路通行止め時の並行路線対策やラジオ放送・SNS を活用した情報発信、TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊：リエゾン<sup>注</sup>) を含む) の派遣による自治体支援などを、円滑かつ迅速に、きめ細やかに実施します。

(注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員)



スクラム除雪<sup>※</sup>の状況

※大雪時に自治体(市など)と国土交通省が連携し、狭い市道の雪を近接の幹線国道へ「押し出して」一斉に排雪・運搬する、効率的かつ迅速な道路確保の取組。



石狩・空知地方道路防災連絡協議会  
(WEB併用開催)

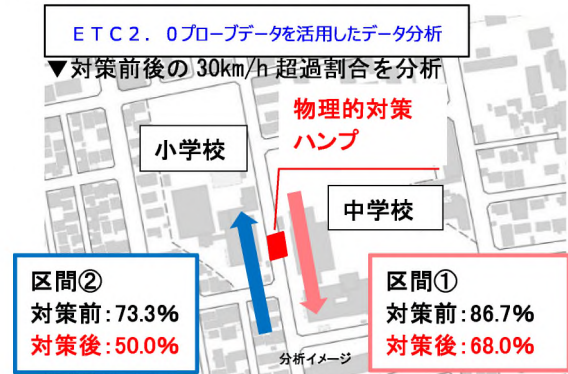
## (5) 安全・安心な移動環境の確保

事故多発区間での事故データを用いた分析や、ビッグデータを活用した潜在的な危険区間の分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する「事故ゼロプラン」※を推進するとともに、生活道路における速度抑制や通過交通の進入抑制を図る面的対策の検討において、ETC2.0プローブデータを活用した分析により自治体を支援し、安全・安心な道路空間の整備を推進します。

※事故ゼロプラン：交通事故の危険性が高い区間である「事故危険区間」の交通事故対策の取組



交差点における交通安全対策  
(国道12号 砂川市)



ETC2.0プローブデータを活用した分析  
(札幌市)

## (6) 除雪現場の省力化による生産性・安全性の向上に関する取組 (i-Snow)

人口減少や高齢化が進む中、除雪機械の熟練オペレータの高齢化や担い手不足など、除雪を取り巻く課題の解決のため、準天頂衛星「みちびき」と「高精度3Dマップデータ」を活用した運転支援ガイダンスや、投雪作業自動化の実証実験・実働配備を行っています。

機械操作の自動化により、2名体制で行う除雪機械の運転操作が1名体制でも可能となり、人口減少下でも必要な除雪サービスを維持します。

### ■除雪機械（ロータリ除雪車・除雪トラック・小型除雪車）の作業操作自動化

- ・投雪作業の自動化について、令和4年度より実働配備を開始。
- ・令和7年度までに札幌開発建設部管内で4台を実働配備。
- ・準天頂衛星「みちびき」通信電波の不感地帯対策について検討を継続。



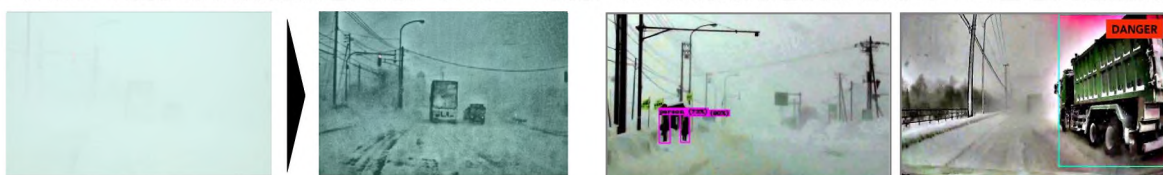
除雪現場の省力化イメージ



『除雪装置自動制御付』除雪トラック

### ■吹雪時の映像鮮明化技術

- ・吹雪等の視界不良時でも約100m先まで視認が可能となり、安全に除雪作業の継続が可能。
- ・令和3年度より実働配備を開始。令和7年度までに札幌開発建設部管内で42台を実働配備。



元映像

鮮明化処理

映像鮮明化+AIを活用した物体検知・警告

## (7) 「道の駅」の防災拠点化

国土交通省では、都道府県が策定する広域的な防災計画（地域防災計画）に位置付けられているなどの選定要件を満たす道の駅を「防災道の駅」としており、札幌開発建設部管内においては令和7年5月14日に道の駅「ハウスヤルビ奈井江」を選定しました。また、災害時において、広域的な災害応急対策を迅速に実施するための拠点を確保することが重要であることを踏まえ、地域防災計画等に位置付けられた「道の駅」の自動車駐車場を「防災拠点自動車駐車場」として指定しており、札幌開発建設部管内では令和8年3月末時点で9駅を指定しています。

上記の「防災道の駅」をはじめとする地域防災計画に位置付けられた「道の駅」においては、更なる防災機能強化に向けて、地域の防災力向上に資する防災拠点の整備や機能向上を図っています。



「防災道の駅」として選定した  
道の駅「ハウスヤルビ奈井江」



防災訓練  
道の駅「ハウスヤルビ奈井江」

## 5. 地球温暖化対策を先導するゼロカーボン北海道の実現

### (1) 再生可能エネルギーの導入拡大、脱炭素化等の取組

地球温暖化防止が重要な政策課題となっている中で、北海道の豊かな自然や地域資源を活かしてグリーン社会の実現を主導していくことが求められています。ゼロカーボン北海道の実現に向けた取組を推進し、持続可能な脱炭素社会の形成を図ります。

○令和4年4月に北海道開発局・北海道経済産業局・北海道地方環境事務所・北海道によるワーキングチームを設置し、道の駅設置者である市町村や道の駅管理者と連携し、「道の駅」に急速EV充電施設の設置を推進します。

○CO2削減に大きく寄与する道路ネットワークの整備、渋滞対策等を推進します。

令和3年度から令和7年度までの直轄国道の開通により、CO2排出量が約6万t/年<sup>※</sup>削減します。<sup>※</sup>北海道開発局調べ



道の駅への急速EV充電施設設置  
(道の駅「石狩あいろーど厚田」)



道央圏連絡道路 中樹林道路  
【令和7年3月15日開通】

●令和8年度 主な道路事業の概要

◎は令和8年度新規事業化

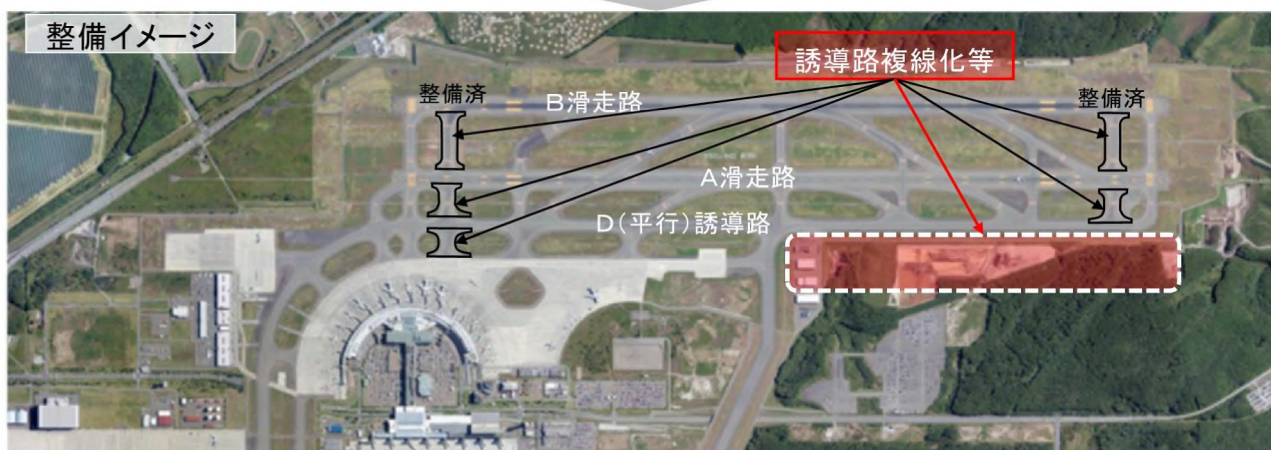
国道名	事務所	主要事業
5号	札幌道路事務所	創成川通、札幌駅交通ターミナル整備
12号	札幌道路事務所	幸町交差点改良、菊水電線共同溝 白石中央電線共同溝、白石本通第二電線共同溝、 厚別中央電線共同溝、江別野幌町第二電線共同溝
	岩見沢道路事務所	峰延道路
	滝川道路事務所	江部乙付加車線整備、北滝の川付加車線整備
	深川道路事務所	稲田付加車線整備
36号	札幌道路事務所	美園交差点改良
	千歳道路事務所	北栄路肩改良
230号	札幌道路事務所	南16条西交差点改良、山鼻路肩改良
233号	深川道路事務所	道道沼田妹背牛線交差点改良
234号	岩見沢道路事務所	朝日湯地交差点改良、道道夕張長沼線交差点改良
275号	札幌道路事務所	◎知来乙交差点改良
337号	札幌道路事務所	道央圏連絡道路「長沼南幌道路」
	千歳道路事務所	南幌路肩改良
452号	岩見沢道路事務所	盤の沢道路
453号	札幌道路事務所	石山東2交差点改良、平岸交差点改良

# 令和8年度 空港整備事業

## 1. 生産空間の維持・発展による食料安全保障及び観光立国の一層の強化

### ○国内外の旅行者の受入環境整備（誘導路複線化等）

新千歳空港では、除雪作業や航空機のトラブル等による滑走路の一時的な占有に起因する遅延や欠航が課題となっていることから、誘導路の複線化事業等を推進し、航空機の安定運航を図り、国内外旅行者の受入環境の整備に取り組みます。



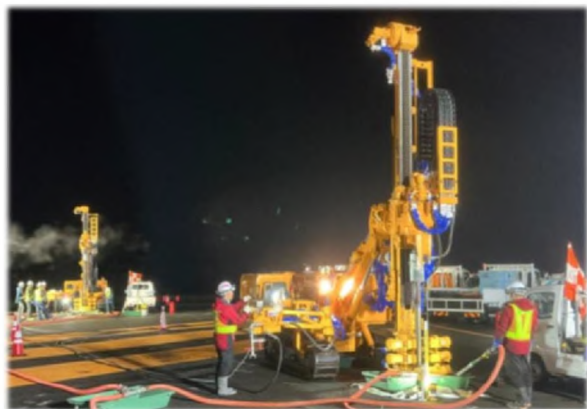
## 2. 安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり

### ○空港の防災・減災対策（滑走路等の液状化対策）

新千歳空港では、大規模地震災害時における緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワーク及び背後圏の経済活動を維持するため、空港の防災・減災対策を推進します。

### ○滑走路端安全区域（RESA）の整備

新千歳空港では、航空機がオーバーランまたはアンダーシュートを起こした場合の乗客の被害軽減と航空機の損傷軽減対策として、着陸帯両端に安全確保のための滑走路端安全区域（RESA）の整備を着実に実施します。



## 令和8年度 国営公園事業（滝野すずらん丘陵公園）

### ◇広域レクリエーションの拠点となる大規模公園の運営維持管理

滝野すずらん丘陵公園は、四季折々、北海道ならではの豊かな自然を満喫できるよう、自然体験型観光や冬期も利用可能な広域レクリエーションなどのニーズに対応した公園を目指しています。

当公園は、平成22年度に約400ha全面を開園しており、「自然と人・人と人のふれあい」を基本テーマとして、多様なニーズに対応する四季を通じた利用促進を図るため、花フェスタ（チューリップ・すずらん等）、滝野スノーワールド、森の中で音楽やソリ遊びを楽しむ森フェス等の様々な野外レクリエーション活動を展開しながら、公園施設の修繕・更新、ヒグマの侵入防止対策、温室効果ガスの排出の削減を目的とした照明のLED化等、適切な運営維持管理を行います。

また、様々なニーズに対応したイベントの開催、SNSを活用した動画による情報発信の充実、Wi-Fiスポットの提供、HP（4カ国語対応）による公園情報の提供、翻訳機等による公園案内を行い、外国人観光客にも安心・快適に公園を楽しんでいただけるよう、受入環境の整備を推進します。

### 滝野すずらん丘陵公園



チューリップ・すずらんフェスタ



滝野スノーワールド(そりゲレンデ)



野外レクリエーションイベント  
(森フェス:ウィンター)

# 国営かんがい排水事業 しのつうんがちゅうりゅう 篠津運河中流地区



## 地域の概況

本地区は石狩川の中下流に広がる石狩平野に位置し、戦後、世界銀行からの融資を受けた篠津地域泥炭地開発事業(S30～46)により、かんがい排水施設の整備と開拓や客土を進め、特殊土壌である泥炭を克服し、わが国有数の農業地帯として発展してきました。

現在は水稲を中心に小麦、大豆、小豆、ブロッコリー、レタス、ゆり等を組み合わせた農業経営が展開されている。北海道有数の良食味米の生産を行い、JA新しのつでは米の「輸出産地リスト」に登録し輸出の拡大を図っています。併せてブロッコリー、レタス等の高収益作物の生産拡大等による産地収益力の向上を目標としています。

○かつての篠津原野



○篠津地域泥炭地開発事業  
(篠津運河の開削)



○江別市のブロッコリー・レタスは  
全道でも有数(収穫量は常に上位)



## 地区の現状と課題

地区内の用水について、水稲の作付減少や近年の野菜類の作付拡大等に伴い水需要が変化しているとともに、施設の経年的な劣化等が進行しており、特に南美原揚水機では堆積した土砂の除去など、維持管理に多大な費用と労力を要しています。

また、地区内の排水は、降雨形態や土地利用の変化に伴い、流出量が10%増加しており、施設の排水能力が不足し、湛水被害が発生するなど農業生産性が低下しています。

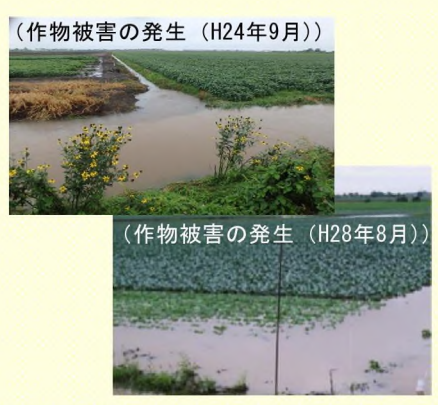
○南美原揚水機の取水阻害  
(導水路の堆砂)



○用水施設の経年的な劣化  
(管水路からの漏水・空気弁の劣化)



○湛水被害の発生



# 事業目的

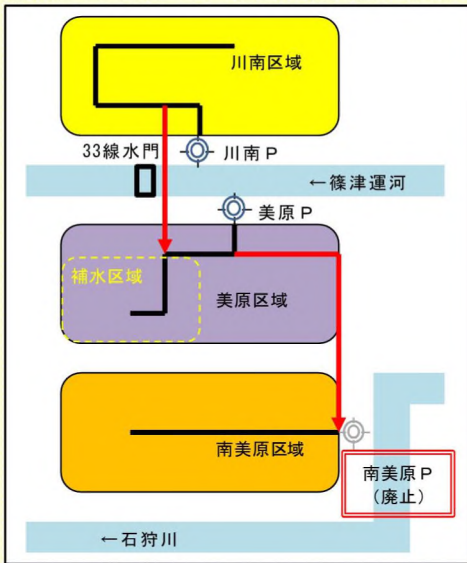
本事業では、水需要の変化等に対応した用水再編と流出量の増加に対応した排水改良を行うとともに、既存の用排水施設を整備し併せて関連事業において支線排水路を整備することにより、農業用水の安定供給と維持管理の軽減及び農地の湛水被害解消を図り、農業生産性の向上及び農業生産活動の継続的な実施に資するものであります。

# 事業計画概要と期待する効果

- 受益面積 : 4,962ha
- 工期 : 令和4年度～
- 関係市町村 : 江別市、石狩郡当別町及び新篠津村
- 受益戸数 : 289戸
- 主要工事 : 調節水門1箇所(改修)、揚水機場2箇所(改修)、排水機場1箇所(改修)、用水路6条L=12.1km、排水路3条L=5.9km
- 主要作物 : 水稲・小麦・豆類・野菜類(ブロッコリー、レタス)・花き(ゆり)

## 【用水再編】

- 南美原揚水機場を廃止し、その機能を既存の2揚水機場に統合



## 【用排水施設の整備イメージ】

- 幹線用水路

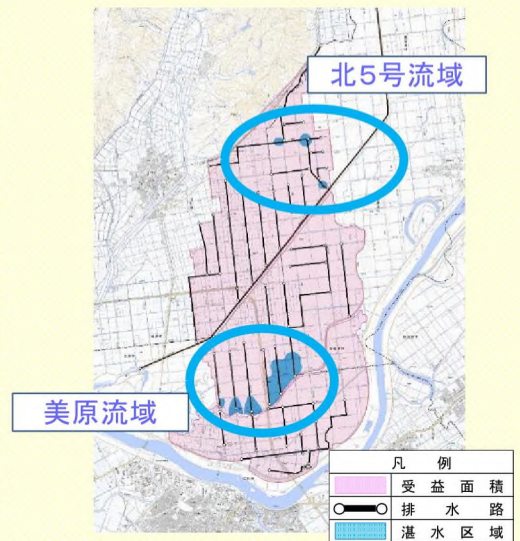


- 幹線排水路



## 【湛水被害の解消】

- 排水路等の整備により湛水被害を解消



- 老朽化した施設を改修し、農業生産に不可欠な用水を継続的に安定供給します
- 揚水機場を再編・統合し、維持管理費の軽減とエネルギー使用量の低減を図ります
- 排水施設の機能を増強する整備を行い、湛水被害の解消や農地の排水性改善により野菜等の作付拡大を推進し、農業の収益性向上を図ります

## ○用水施設の維持管理費の軽減



## ○高収益作物(※)の生産拡大



(※) 小豆、かぼちゃ、たまねぎ、レタス、ブロッコリー、ゆりの作付面積合計

# 国営緊急農地再編整備事業

いわみざわきたむら

# 岩見沢北村地区

— ICTを活用した低コスト・高品質生産を実現する  
未来につなぐ“強いいわみざわ農業”の展開 —



岩見沢北村地区  
(岩見沢市)

## 地域の概要

- 本地域は、石狩川左岸の泥炭地に広がる水田地帯。これまで進めてきた国営土地改良事業等を通じて豊稔の恵みをもたらす農業生産基盤が形成され、水稻を中心に、たまねぎ、はくさいといった野菜においても道内有数の産地として発展。
- 全国に先駆けRTK基地局や光ファイバー網等のICT基盤整備を行い、スマート農業の普及や実証試験に精力的に取り組んでいます。
- 戸当たり経営規模の拡大に伴う労働力不足に対し、いち早く水稻の乾田直播栽培を導入するなど省力化を推進。

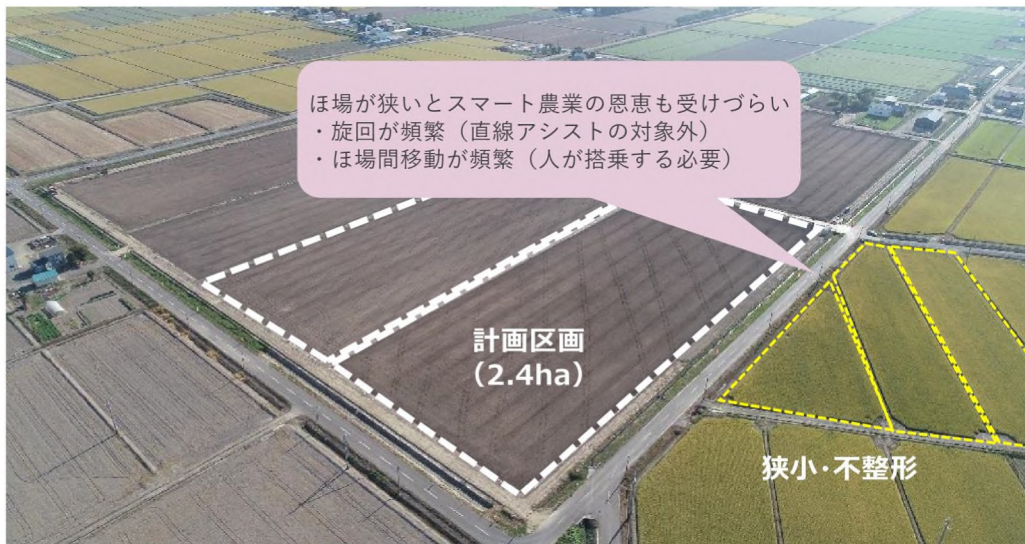


道内有数の野菜産地



市内全域で高精度測位補正  
情報が利用可能

## 地域の現状と課題



ほ場が狭いとスマート農業の恩恵も受けづらい  
・旋回が頻繁（直線アシストの対象外）  
・ほ場間移動が頻繁（人が搭乗する必要）

計画区画  
(2.4ha)

狭小・不整形

- 地区の農地は小区画、不整形であるとともに、土壌条件により排水不良が生じ、大型機械やスマート農業等先進的な農業技術の導入の支障となっています。
- 今後も経営規模の拡大が見込まれる中、限られた労働力で野菜類の生産維持や農地を継承することが困難となっています。



排水不良  
地区全域に排水不良  
な泥炭土が分布

ほ場がぬかるんで  
作業効率が悪い、  
収量が少ない



狭い農道

農道が狭くコンバ  
インがはみ出す



耕作放棄地

条件が悪いほ場  
が耕作放棄

スマート農業の導入に  
対応した農地に整備



超省力・低コスト農業生産

限られた労働力で産地  
収益力を向上

# 事業内容

## 着手前

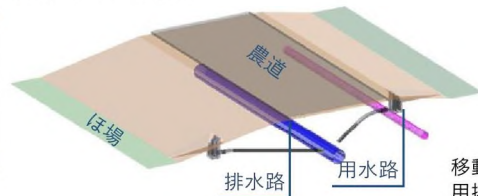


- ほ場の大区画化、排水改良を図るとともに、農区を支線農道で囲んだ閉鎖区画の構築、ターン農道など自動走行農機の導入を見据えた整備を実施。
- 集中管理孔方式の採用により、暗渠管の洗浄による長寿命化のほか、暗渠管を通じた地下かんがいが可能となり、水稻の直播栽培や野菜類への畑地かんがいに利用されています。

## 整備後



関係市町村：岩見沢市  
 受益面積：1,393ha  
 主要作物：水稻、小麦、大豆、たまねぎ、はくさい等



移動の支障となる用排水路を地下に埋設

# 事業を契機とした地域の動き

## 岩見沢ほ場整備ゼミ

国、道、岩見沢市、岩見沢市広域協定、寒地土木研究所等の関係者で集まり、岩見沢市をフィールドとした様々な取組の情報共有や現場見学などを実施。ほ場整備と各種取組の相乗効果が発揮されることが期待されます。



## 田んぼダム

岩見沢市広域協定（多面組織）が大学等と連携し落水量調整装置を開発。整備の進捗に合わせて田んぼダムの取組を拡大。

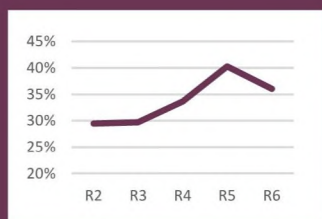


## 水稻の乾田直播

水稻の省力的な作付体系である直播栽培の取組が拡大。主に加工用や飼料用として生産。



水稻の播種作業



## 下水汚泥の肥料利用

畜産資源が少ない岩見沢市では、下水汚泥コンポストを農地に施用。肥料価格の高騰対策や化学肥料低減のみならず、これらを切り口とした付加価値の向上にも取り組む。



農地へ還元



もみ殻などの地域資源と合わせてコンポスト化し農地に施用



(国営総合農地防災事業)

# 雨竜川下流地区



～農作物の安定した生産のために～

## 【地域の概要】

本地区は、北海道雨竜郡妹背牛町及び秩父別町に位置する農業地帯であり、水稻を主体に水田の畑利用による畑作物、野菜類及び花きを組み合わせた営農が展開されています。

地域農業は、水稻の算出額割合が85%と高く、北海道で生産される米の収穫量の約5%を占めています。（※2町合計値）

生産された米は地域ブランド米（妹背牛町「北彩香」、秩父別町「いなほの鐘」）として、道内外に販売されています。

また、秩父別町産のブロッコリーパウダーを練り込んだ「ちっぴべつ緑のナポリタン」の販売など農商工連携も取り組まれています。



<地域ブランド米「北彩香」>



<地域ブランド米（いなほの鐘）>



<ちっぴべつ緑のナポリタン>

## 【地区の概要】

- ◎関係市町村 : 雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別町
- ◎受益面積 : 829ha
- ◎受益戸数 : 58戸
- ◎主要工事計画 : 頭首工（改修）1カ所、揚水機（接続工改修）1カ所、  
導水路（改修）1条 L=2.5km
- ◎工期 : H29～
- ◎主要作物 : 水稻、小麦、大豆、ブロッコリー、花き(スターチス)



## 【地区の課題】

本地区の基幹的農業水利施設である八丁目頭首工は、洪水等の自然的状況の変化に起因する河床洗掘の進行により、浸透路長が不足し、施設の機能が低下していることから、頭首工の転倒によって農作物、農地等への広域的な災害のおそれが生じています。

### ■河床洗掘による頭首工の安全性低下

年度	八丁目頭首工 計画高水流量	
昭和40年	2,200m <sup>3</sup> /s	八丁目頭首工造成時
↓		
平成19年	2,500m <sup>3</sup> /s	計画高水流量の変更
頭首工の安全性が不足		

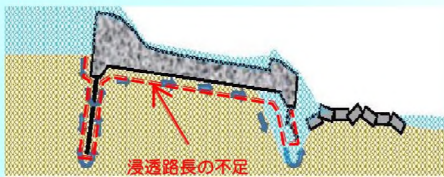
平成14年撮影



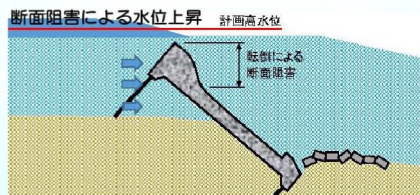
令和3年撮影



### ■八丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ



- 河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足。
- 浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念。



- 固定堰の転倒にともない、用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な災害が発生するおそれ



## 【事業の効果】

八丁目頭首工等の改修を行い、頭首工の施設機能を回復することにより、農作物、農地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図ります。

【現況】



頭首工等の改修



【完成した頭首工】



新しい施設からの取水  
(用水の安定供給)



【田植え後の状況】



農業生産の維持



【米の収穫状況】

